



TITLE:

# 島田市民病院泌尿器科における手術統計(1992年-1996年)

AUTHOR(S):

宮川, 美栄子; 木原, 裕次; 岡垣, 哲弥; 松岡, 直樹; 日置, 琢一; 岡田, 崇; 東, 新; 宗田, 武; 堀, 大輔

---

CITATION:

宮川, 美栄子 ...[et al]. 島田市民病院泌尿器科における手術統計(1992年-1996年). 泌尿器科紀要 1997, 43(10): 759-762

ISSUE DATE:

1997-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/116040>

RIGHT:

## 島田市民病院泌尿器科における手術統計

(1992年～1996年)

島田市民病院泌尿器科 (科長: 宮川美栄子)

宮川美栄子, 木原 裕次\*, 岡垣 哲弥\*\*

松岡 直樹\*\*\*, 日置 琢一\*\*\*\*, 岡田 崇\*\*\*\*\*

東 新\*\*, 宗田 武, 堀 大輔

STATISTICS OF THE OPERATION AT DIVISION OF UROLOGY,  
SHIMADA MUNICIPAL HOSPITAL: 1992-1996

Mieko MIYAKAWA, Yuji KIHARA, Tetsuya OKAGAKI,

Naoki MATSUOKA, Takuichi HIOKI, Takashi OKADA,

Shin HIGASHI, Takeshi SODA and Daisuke HORI

From the Division of Urology, Shimada Municipal Hospital

A recent 5-year (1992-1996) statistic survey was carried out on the operations performed at the Division of Urology, Shimada Municipal Hospital.

(Acta Urol. Jpn. 43 : 759-762, 1997)

**Key words:** Statistics, Operation

## 緒 言

前回 (1987年1月～1991年12月) の手術統計<sup>1)</sup>に引き続き, 1992年1月から1996年12月までの5年間に於ける島田市民病院泌尿器科手術統計を行ったのでその結果を報告する。

島田市は人口約7万の地方都市で, この20年間人口増加が認められず, 高齢化が進んでいるものと推定される。この10年間の1日平均外来患者数の推移をみると, 1987年から26.5, 27.8, 32.1, 36.6, 39.4, 42.7, 55.1, 57.3, 68.6と増加してきたが, 1996年には65.3となり初めて減少した。周辺病院の設備とスタッフの充実も加わり, 外来患者数はほぼ横這い状態あるいは減少傾向にあると言えるかもしれない。

## 対象ならびに方法

1992年から1996年の5年間の手術台帳をもとに前回と同様の方法で統計を行った。すなわち, 同一患者で同じ手術を複数回行っている場合も (ESWL 等) おのおの1件と数えた。また膀胱全摘術および尿路変向術はおのおの1件と数えた。また尿路変向時に施行し

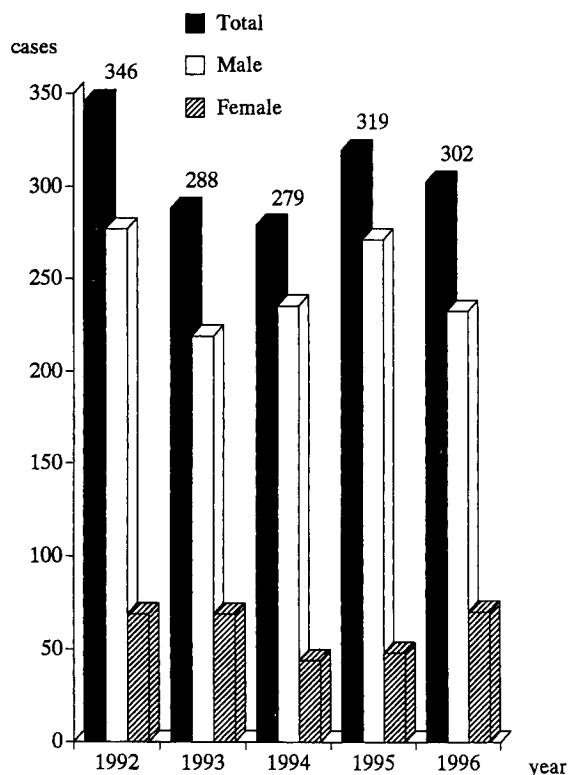


Fig. 1. Frequency of operation and sex distribution.

\* 現: 武田病院泌尿器科

\*\* 現: 京都大学医学部泌尿器科学教室

\*\*\* 現: 国立がんセンター

\*\*\*\* 現: 愛知県がんセンター泌尿器科

\*\*\*\*\* 現: 倉敷中央病院泌尿器科

た虫垂切除術は件数に加えなかった。また悪性腫瘍に対するリンパ節廓清は原則として別項にはせず, 原発巣摘除術に含めて考えた。

Table 1. Operations for urolithiasis

	Ureterolithotomy	PNL	TUL	Cystolithotomy	ESWL	Total
1992	1	2	5	2	146	154
1993	0	0	3	0	73	76
1994	0	3	3	1	78	84
1995	0	0	6	0	122	128
1996	0	0	6	0	91	97
Total	1	5	23	3	510	539

Table 2. Operations for benign prostatic hypertrophy

	Retropubic prostatectomy	TUR-P	V LAP	Total
1992	7	27	0	34
1993	3	29	0	32
1994	1	41	14	56
1995	5	30	4	39
1996	2	31	0	33
Total	18 (9.3%)	158 (81.4%)	18 (9.3%)	194

## 結 果 と 考 察

入院患者数：男女別入院患者総数は、1992年は男性235人、女性61人、計296人、1993年はおのおの214人、68人、計282人、1994年は253人、54人、計307人、1995年は242人、54人、計296人、1996年は、216人、70人、計286人であった。前回の統計のような上昇傾向は見られず、年間平均290人前後で、横這い状態である。

5年間の平均で見ると男性1,160人(79.1%)、女性307人(20.9%)で、前回に比べ男性(77.8%)の割合がやや上昇していた。60歳以上の人の割合は55.4%となるが、この5年間の中では明らかな増加傾向は見られていない。

年度別・性別手術件数 (Fig. 1)：5年間の手術総数は1,534件で前回の5年間の1,195件より339件28%増であった。各年毎に見ると Fig. 1 の様に一定の傾向は認められず、300件前後で頭打ちの状態である。男

女比はほぼ4:1である。

尿路結石に対する手術 (Table 1)：処置を必要とした結石患者は平均で年間100人前後である。一定の傾向は認められないが、ほぼ95%が ESWL で処置されている。1996年には LITHOCLAST も導入され尿管結石に利用できるようになったが、仙骨部に重なっている尿管結石以外の first choice はやはり ESWL である。尿管切石術は5年間で1例のみである。交叉部に位置し手術が最もやりやすい場所にあった結石で、外国出張を前にした患者の希望によっている。

前立腺肥大症に対する手術 (Table 2)：5年間の件数は194件であるが、1994年をピークに漸減している。 $\alpha$ -ブロッカーの出現により手術適応となる症例が減ってきているためと推定している。恥骨後式前立腺摘除術は18例9.3%で、前回統計の51例23.9%から著しく減少している。経直腸の超音波断層法で前立腺容積が前回の場合は30 cc 以上としていたが、今回は40~50 cc 以上としたことも減少の原因の一つになっている。

悪性腫瘍に対する手術 (Table 3)：症例数は前回より約100例増加しているものの多いとは言えず、ESWL を除く全手術症例の24.4%にすぎない。年間平均50例である。前回との比較で見ると TUR-Bt が87例から164例と約2倍になったのに対して、Radical cystectomy が13例から9例と半分に減少している。一方前回にはなかった partial cystectomy が5例加わっている。膀胱頂部の腫瘍に対するもの、動注化学療法後の腫瘍が対象である。radical nephrectomy は

Table 3. Operations for malignant tumors

	1992	1993	1994	1995	1996	Total
Radical nephrectomy	3	4	6	6	3	22
Partial nephrectomy	0	0	0	0	1*	1
Nephroureterectomy with cuff	1	4	3	1	5	14
Radical cystectomy	2	4	1	1	1	9
Partial cystectomy	1	2	0	1	1	5
TUR-Bt	30	35	29	36	34	164
Radical prostatectomy	5	5	4	5	5	24
High orchiectomy	0	5	2	1	3	11
Total	42	59	45	51	53	250

\* Giant AML

Table 4. Urinary diversion

	1992	1993	1994	1995	1996	Total
Nephrostomy	0	1	2	2	9	14
Ureterocutaneostomy	1	1	0	0	0	2
Ileal conduit	0	0	1	0	1	2
Ileal neobladder	0	2	0	1	0	3
Indiana pouch	2	0	0	0	0	2
Cystostomy	1	1	1	2*	1*	6
Total	4	5	4	5	11	29

\* Continent cystostomy

Table 5. Miscellaneous

	1992	1993	1994	1995	1996	Total
Adrenalectomy	1	0	1*	1*	0	3
Endopyelotomy	4	0	0	0	0	4
Nephrectomy	0	0	0	2	2	4
Renal cyst puncture	0	2	1	1	1	5
Renal biopsy	10	10	8	10	17	55
Ureterscopy or dilatation	7	5	19	4	4	39
Ureterolysis	0	1	1	1	0	3
RPLND	1	0	0	0	1	2
Anti VUR	0	0	1	0	2	3
Coag. diverticle or ureterocele resection	1	1	0	3	2	7
TUR-biopsy and/or random biopsy	5	10	7	13	10	45
TUI	0	0	4	9	0	13
Castration	4	9	4	7	7	31
Orchidopexy or testicular biopsy	10	7	5	2	7	31
Varicocelectomy	0	0	1	2	0	3
Vasectomy	3	5	3	3	1	15
Epididymectomy	0	1	0	0	0	1
Circumcision or flap incision	19	24	13	7	15	78
Hydrocelectomy or spermatocelectomy	4	3	6	4	12	29
Caruncle or prolapse urethrae excision	0	1	1	0	5	7
Endourethrotomy	0	1	5	1	3	10
Incontinence repair	0	0	2	1	1	4
A-V shunt or declotting	21	22	0	0	0	43
CAPD	1	2	0	0	0	3
others	10	9	5	6	11	41
Total	101	113	87	77	101	479

\* Laparoscopic adrenalectomy

22例, nephroureterectomy with cuff が14例である。  
1例の partial nephrectomy は, 巨大な AML 症例  
に対して行われたもので, 悪性腫瘍ではないが便宜上  
この中に加えた。radical prostatectomy は前回の約 2  
倍24例に行われた。一方陰茎癌に対する amputation  
の症例はなかった。

尿路変向術 (Table 4): 今回は膀胱全摘除術が少な  
いこともあって尿路変向術も減少している。uretero-  
cutaneostomy, ileal conduit, indiana pouch はそれ  
ぞれ 2 例ずつで, ileal neobladder (Hautmann) 3 例  
の計 9 例が全摘例である。nephrostomy 14 例のうち 9

例が悪性腫瘍の進展に伴うものである。cystostomy 6  
例のうち 2 例は continent cystostomy である。

その他の手術 (Table 5): 腹腔鏡下の adrenalectomy  
はわずか 2 例である。症例がきわめて少なく副  
腎に関する腹腔鏡下手術の訓練はほとんど不可能な状  
態といえる。前回と異なるものに腎生検の増加があ  
る。超音波ガイド下の生検操作が容易になったことが  
原因と考えられる。renal cyst puncture の減少は前  
回の反省にもとづいている。castration も減少してい  
るが, 前立腺癌に対する内分泌療法に LH-RH agon-  
ist が加わり患者の選択肢が増えたことによると思わ

Table 6. Anesthesia

	1992	1993	1994	1995	1996	Total
General A.	40	49	41	39	46	215 (21.0%)
Lumbar A.	89	84	98	99	105	475 (46.4%)
Epidural A.	3	4	23	12	6	48 ( 4.7%)
Sacral A.	1	3	11	15	6	36 ( 3.5%)
Local A.	67	75	28	32	48	250 (24.4%)
Total	200	215	201	197	211	1,024

れる。わずかの症例であるが尿失禁に対する手術はすべて Stamey の方法で行っている。ただし1994年の1例は根治的前立腺全摘後の尿失禁に対しての人工尿道括約筋 (AMS 800) の埋込手術である。当院では1994年以後血液透析部に常勤医2名となり、シャント形成も泌尿器科は行わなくなった。

麻酔 (Table 6) : ESWL を除く5年間の手術総数は1,024件である。全身麻酔は215件 (21.0%) で、腰椎麻酔が475件 (46.4%)、硬膜外麻酔が48件 (4.7%)、仙骨麻酔36件 (3.5%)、局所麻酔250件 (24.4%) であり、麻酔科に依頼するものは麻酔医が少ないこともあって30%位になっている。

## 結 語

1992年1月～1996年12月の5年間における島田市民病院泌尿器科手術統計を行った。年間入院患者数は

290人前後、手術件数も年間平均200件 (ESWL を除く) とほぼ一定数で推移していた。60歳以上の患者の割合は平均55.4%で、この5年間に一定の傾向は認められなかった。前立腺肥大症に対する手術は年間40件弱で、前回 (1987～1991年) 統計に比べ約10%減少した。悪性腫瘍に対する手術は年間平均約50件で、全体の24.4%であった。麻酔方法は全身麻酔21.0%、腰椎麻酔46.4%であった。

## 文 献

- 1) 宮川美栄子, 木原裕次, 水谷陽一, ほか: 島田市民病院泌尿器科における手術統計 (1987年～1991年). 泌尿紀要 39 : 877-880, 1993

(Received on June 2, 1997)

(Accepted on June 10, 1997)